

審判員派遣報告書

派遣事業名	第7回全日本社会人バスケットボール選手権熊本大会	派遣期日	令和7年2月8日、9日
報告者	平尾 翔汰朗	派遣先	熊本県立総合体育館

1 大会概要

大会名称	第7回全日本社会人バスケットボール選手権熊本大会	大会期間	令和7年2月8日～10日
大会概要	各県予選を勝ち抜いたチームが各ブロック予選を戦い上位進出したチームが出場できる大会		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和7年2月8日	会場	熊本県立総合体育館
審判クルー	CC:平尾翔汰朗（香川） U1:河内千沙（東京） U2:速水蘭磨（奈良）		
担当試合	ストレッチ（九州2位/長崎県） VS 光風クラブ（東北2位/福島県）		
試合内容	ゲーム序盤はストレッチが点差を20点開いて優位に進めて前半を終えたが、後半から光風クラブが追い上げたが、ストレッチが逃げ切った。		

日程	令和7年2月9日	会場	熊本県立総合体育館
審判クルー	CC:松本祐大（栃木） U1:平尾翔汰朗（香川） U2:三宅康二（京都）		
担当試合	日立大みか（関東2位/茨城県） VS Three Horses（近畿2位/大阪府）		
試合内容	序盤から接戦の展開で僅差で日立大みかがリードしていた。4Q終盤に Three Hoses が同点に追いつくも日立大みかがショットを沈め勝ち切った。		

3 大会を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

○オンライン研修について（講師：小田中涼子氏、高野晃平氏、千葉美幸氏、柳田雅人氏）

～ベーシックメカニクス～

・ベーシックの確認

2024-25TLG研修で使用された資料をもとに確認を行いました。改めてベーシックを確認できたことでベーシックの理解を深めることができました。それぞれのセットアップポジションからレフェリングをするためにはスプリントすることが大事なポイントになる。スプリントしいち早くポジションにつくことでプレーに遅れることなく止まった状態でレフェリングすることができるためより精度の高い判定に繋げていくことができる。

・エッジ（コーナースhots）の考え方（リードとトレイルの協力）

エッジ下のプレーに関して基本原則はリードのプライマリーとなる。リードは身体・顔を向けてトレイルに対してチェックインしたことをアピールすること。チェックインすれば必ず静止してFULを確認する。リードがチェックインしている場合はトレイルはリバウンドカバレッジを捉えるが、100%になるのではなく、ビッグピックチャーを意識してセカンダリーに備えておく。リードがエッジ下を捉えていく習慣を持つことでトレイルがペイント内を捉える習慣がつくようになる。

- ヘルプディフェンダー

基本概念としてはヘルプディフェンスラインより下にいるプレーヤーをリードが捉えていく。また、ウィークサイドからのヘルプディフェンダーに対してはリードが捉えるようになっていたが、センターが捉え判定していくようになる。ただし、トランジションのケースにおいては原則リードが捉え判定していく。

～プレイコーリング～

- プロテクトシューター

まず重要すべきことはポジションアジャストをして足元を確認できるポジションを確保すること。Foot、Up、Landing、Fakeを確認しシューターの着地点を確保し怪我の予防に繋げる。

- アクトオブシューティング（以下 AOS）

AOSかどうか迷った場合（ほとんど同時）はAOSを適応する。またAOSを適応させた場合はプレゼンテーションをはっきり分かりやすく見せる！！

～コミュニケーション～

コミュニケーションは試合を円滑に進めるためにコート内で行われる意思伝達である。コミュニケーションの方法は会話だけでなくアイコンタクトもコミュニケーション手段の一つ。

コミュニケーションを取る際には①ショート&クリアで②相手の意見を聞き主張を否定しない③嘘をつかないことの3つのポイントを大事にしていくこと。

○大会従事、全体を通して

今大会を通して研修会での内容を中心に意識を高く持って取り組めたと思います。PGC、ゲーム中、ゲーム後のカンファレンスにおいて、ベーシックに関することやプレイコーリングに関するものがほとんどでした。自分自身の今の課題としてプレイコーリングとコミュニケーションが挙げられています。プレイコーリングについてはラフにはならずタフなプレイを続けてもらいバスケットとして見応えのあるゲームを運営できるようにコールするものしないものの質を高めていくことを意識して取り組めたと思います。コミュニケーションにおいてはクルーだけでなく選手やベンチとのコミュニケーションを大事にしました。自分の意見ばかり述べるのではなく、相手の主張をまず受け入れその後自分の思っていることを伝えることで選手やベンチとも共通認識を持ってゲームを運営できたと思います。またクルー間の中でのコミュニケーションに課題を見つけることができました。それは自分以外のクルーの気持ちをのせて判定に積極的に入ってきてもらえるようなコミュニケーションを取ることです。ゲーム自体は決断すべきところで誰かが決断できていれば収まりますが、本来決断すべき人が決断することがベストです。決断できなかった理由なども踏まえて気持ちを乗せて一緒に1ゲームを運営できるような声掛けをできるようにしていけるように取り組んでいきたいと思いました。

4 その他

この度は、表題の大会に派遣いただきまして誠にありがとうございました。香川IH・全中でお会いした方や初めましての方などたくさんの方とお会いすることができたこと、高いレベルのゲームを担当できたことで改めて全国大会や県外に出て審判できることが楽しいと感じれました。今回の経験を上級審判員・社会人連盟審判長として県内に還元できるようにこれからの活動に取り組んで参りますのでこれからも引き続きご指導のほどよろしくお願い致します。